

ヨーガ療法ボランティア報告

岩手 小関喜久江

★日 時 平成 25 年 10 月 20 日（日） 午前 10:30～11:30

★場 所 大船渡市 末崎小学校仮設集会所

★参加人数 なし

★ボランティア同行者 栗野伸子・古館まち

★状 況 内陸、沿岸共に小雨模様。山々の木々は少しずつ色づき始めているが靄で霞んでいる。仮設の駐車場に到着すると数台の車が停まってはいるものの、人の気配が感じられない静けさだ。いつもの支援員さんが休みだったため同行者の二人が声を掛けながら一回りしたが、やはり人気がない様だとの事。
遅れて来られる方もあるかもしれない…と準備していた DVD を 3 人で実習し始めた。
結局参加者は無かったものの、開始間もなく所用で訪れた仮設のマネージャーと支援員のお二人が来て下さり色々お話を伺う事が出来た。

近辺仮設（数カ所）の管理運営をスムーズにするために複数のマネージャー(地元住人)が企業に雇われている。

暮らしや生活、メンタル面でも気を配り自立心を持たせながらも快適に暮らせるよう地域のパイプ役をしておられるようだ。

震災から約 3 ヶ月後に出来たこの仮設は当初 58 世帯が入居していたが現在は 42 世帯、年内に転居される方もあり間もなく 40 世帯を切るであろうとの事。

高台移転で造成している場所(仮設からは目と鼻の先…)も教えて頂き帰り際高台から見せてもらった。一区画 100 坪程度の広さが 12 区画ありその土地を入手するのも希望通りでは無く抽選である。

何んとか土地が手に入っても大工さんの人手不足、建築資材の不足でスムーズには行かず早い人で来春からの着工になるであろうとのこと。

マネージャーはメンタル面での心配はこれからであるとも話される。

共に助け合って生きてきた仲間が新生活に向けて出てゆき、先が見えず取り残される側は先々の不安が募り気持ちが不安定になるであろう。

個の考え、生活も尊重しつつ行事への誘いかけ等声掛けをしながら繋がっていかなくてはならない。

ボランティアの役割もそういう形になってゆくのだろうと話されていた。

訪問し始めてから初めて参加者の無い日であったが、ヨーガ療法の存在は住人に浸透しているので次回は出てくるでしょう…とのお言葉を頂き集会所を後にした。